

近畿高校新人大会
4年連続京都勢で決勝



2018年2月17・18日奈良県で近畿高校新人バスケットボール大会が開催され、女子の紫野、京都精華学園、男子の東山、洛南が出場しました。男子の2チームは第1シード・第2シードそれぞれから勝ち進み決勝で対戦しました。京都勢同士の近畿大会における決勝対戦は2015年2月の近畿高校新人大会から近畿高校選手権を含めて4年7回連続しています。また、京都府の大会でも同じく2015年新人大会からインターハイ予選、WC予選含めて10回連続東山vs洛南の決勝が続いています。2016年2月に東山が優勝しその後東山の優位が続いていましたが、昨年11月のWC京都府予選で洛南が勝ち、2月の新人府予選は東山、近畿大会では洛南が1点差で辛勝、両チームが拮抗してきました。

この両チームが主体となる国体京都府少年男子チームは現在国体2連覇中です。今年の福井国体を最後にカテゴリーが変更になるので、少年男子3連覇で有終の美を飾り、両チームをはじめ、U18・U15・U12それぞれ選手の活躍を大いに期待したいと思います。



第28回近畿高校新人バスケットボール大会
京都府代表チーム記録

【男子】

1回戦	東山	122-62	初芝橋本
	洛南	78-53	桜宮
2回戦	東山	110-55	阪南大学
	洛南	78-64	育英
準決勝	東山	95-53	神戸科学技術
	洛南	96-61	奈良育英
決勝	洛南	72-71	東山

【女子】

1回戦	紫野	70-71	市立尼崎
	京都精華学園	85-51	和歌山信愛
2回戦	京都精華学園	79-84	奈良文化

2018年有望選手

2018年度の有望選手をいくつかのカテゴリーから聞くことができました。今回はU12(ミニ)U18(高校)社会人(大学)を紹介します。

【U12(ミニ)】 DC委員長 小西 正宏
U-12カテゴリーでは、4月末に府のDC練習会を開きました。

今年度の男子選手は、昨年度から試合に出場し活躍していた選手が多いです。深海温矢(しんかいあつや)君(長岡京ミニ)はスピードあるランプレイから自ら得点を狙います。また広い視野を持ち周りにパスを供給することもできます。東郷然(とうごうぜん)君(宇治ミニ)は、巧みなボールハンドリングからのドリブル突破や外角からのシュートも狙えます。ともに160cmと体も大きくなり、これからは期待されます。他にもスピードあふれるプレイで緩急をつけたドライブが得意な大島歩人(おおしまあゆと)君(綾部ラビッツ)や岩田誠仁朗(いわたせいじろう)君(舞鶴シーイーグルス)。高い身体能力を持つ杉村虹(すぎむらこう)君(鳳徳フェニックス)や田中文矢(たなかたけや)君(長岡京ミニ)らのゴール下へ向かう力強いプレイや、中西哲太(なかにしてつた)君(舞鶴ロケッツ)のミドルシュートが魅力です。また、谷口雅(たにぐちみやび)君(桃山深草)、久保晴熙(くぼはるく)君(桃山深草)らも高いドリブルテクニックでゲームコントロールすることができる選手です。

女子選手からは、キャプテンシーを発揮し、

声を出してチームを引っ張ることができる岡田彩葉(おかだいろは)さん(宇治ミニ)。ドライブインからのパスさばきや外角シュートが得意です。竹原華愛(たけはらけいと)さん(ザ・イーグルス)は、167cmと高い身長を活かしたりバウンドやゴール下での力強いプレイが期待されます。

高身長ながらスピードを活かしたプレイが得意な嶋琉菜(しまるな)さん(鳳徳フェニックス)や身体能力が高く、当たりに負けない強いプレイが得意な檜垣笑里(ひがきえみり)さん(亀岡ミニ)などが挙げられます。

今年度は韓国遠征や福島県との交流事業などがあります。地区DCの活動や『ALL KYOTO』としての活動も始まります。

【U18 (高校)】 高体連技術委員会 〈男子〉

今年度の男子の有望選手を国体候補選手・新人戦の活躍を中心に紹介する。昨年と比較するとガード・フォワード陣は下級生から活躍している選手や、新人戦で実力を発揮した選手など将来的に有望な選手が多く揃う。センター陣も同様で近畿でもトップクラスの選手が多数おり、これからの成長が非常に楽しみである。

ガードは、U-16代表で国際大会も経験した笹山陸(洛南3年185cm)を筆頭に、得点能力抜群で経験豊富な飯尾文哉(洛南3年185cm)シュート力の高い狩野皓介(東山3年182cm)や、ディフェンスに定評のある吉田竜丸(東山3年178cm)が中心となる。また、シュート力が魅力の永山快(洛南3年171cm)、スピードが武器の浅野龍悟(洛南3年174cm)、鋭いドライブで得点を取る小村友貴(東山3年174cm)、3Pが得意な脇阪凪人(東山2年165cm)、シュートエリアが広く得点力のある里見龍平(鳥羽3年175cm)、冷静で判断力がある西村陸哉(山城3年171cm)など新人戦で活躍した選手も今後に期待したい。



フォワードは、外角シュートが得意な澁谷錬(洛南3年186cm)や、パワープレイが武器の藤井滝(洛南3年179cm)、クレバーにどのポジションもこなす高柳優也(東山3年183cm)を中心に、オールラウンダーの星川堅信(洛南2年189cm)、安定したプレイで新人戦を活躍した藪田

陽人(洛南2年180cm)、センスあるプレイで得点を量産する松野圭恭(東山2年184cm)など下級生にも注目される選手が多い。

センターは、昨年の愛媛国体で優勝の原動力となったグラндаマベラ・モンゾンボ・クリスティン(東山3年205cm)、ゴール下から3Pまでシュートを得意とする納土修汰(洛南3年187cm)、リバウンドが強くミドルシュートが武器の藤井量斗(東山3年191cm)、高さを武器に下級生の時から試合に出場し、新人戦で大活躍した小西大輝(鳥羽3年195cm)といった経験豊富な選手たちが揃う。



以上のメンバーが中心になって京都の高校バスケットを牽引していく。昨年、一昨年と国体を2連覇したことで全国に京都府のレベルの高さを証明することができた。今年も続いて優勝できるような実力を持った選手たちが多く、今後の経験や成長が大きく影響してくる。そのためにも、技術委員会としては、スタッフや協会と力を合わせて、京都府全体の競技力が常に全国でもトップクラスだと言われるような環境にしていけるよう、強化・普及に全力で取り組んでいく。

〈女子〉(学年は2017年度)

今年度の新人大会や国体少年女子一次選考の選手を中心に紹介する。

新人大会優勝の紫野からは、キャプテンシーのある④澤岡夢乃(2年163cm)、エースとして自覚が出てきた⑤中原涼那(2年170cm)、スピードが持ち味の⑥松本晏奈(2年164cm)、成長著しい⑦阪本咲希(2年174cm)、リバウンドと1on1で貢献する⑩吉村朋子(1年168cm)らがいる。



準優勝の京都精華学園には、3Pに磨きのかかった④石島侑果(2年160cm)、力強いプレイが持ち味⑩山本静花(2年171cm)、運動能力の高い⑮渡邊夕凪(2年166cm)、体を張ったプレイが持ち味⑦竜崎まなつ(2年155cm)、存在感抜群の⑮ADIWIKOYW LALIA BABA AHMED(1年193cm)、U-16日本代表でも活躍している⑯高橋未来(1年167cm)や⑰松尾祥花(1年162cm)、⑱関瑞葵(1年162cm)など才能に溢れた選手が豊富に揃う。



〔写真提供 BB-PHOTO〕

3位の京都両洋は、攻守ともにチームを引っ張る④高木楓音（2年163cm）、⑪塩貝莉央（1年171cm）を中心に、⑤杉本亜以莉（2年158cm）・⑩前川藍菜（1年163cm）の2人がチームを牽引している。

4位の京都すばるは、中・外ともに安定して得点を重ねる⑦桑原晶華（2年172cm）、インサイドプレイヤリバウンドを頑張る⑧堤美紀子（2年168cm）らがチームを引っ張る。

ベスト8のチームを見ると、福知山成美からは、ゲームコントロールが光る④細谷葵（2年166cm）、存在感のある⑥西田莉子（2年171cm）、突破力のある⑦川口未紗（2年165cm）らがいる。京都西山からは、得点力のある⑥大道聖奈（2年163cm）、攻守ともに安定感の増した④島川莉映瑠（2年154cm）。さらに西城陽からは、オールラウンドプレイヤー⑥石田七緒（2年173cm）、力強いプレイが持ち味の⑨奥村仁美（2年173cm）。鳥羽からは、巧みなステップワークが持ち味の⑥水嶋葵（2年168cm）、⑩佐藤千優（2年160cm）らがいる。

今回、惜しくも上位進出を逃した京都光華には、昨年チームを引っ張っている⑥立石光（2年174cm）、京都明徳には、⑧岡本結真（1年158cm）を中心に1年生の活躍が光る。

今年は、例年以上に個々の能力が高い選手が多く、各チームが切磋琢磨していく中でレベルの高い戦いが期待できる。本委員会としてはスタッフ、協会と力を合わせて、強化・普及に努力して京都のレベルアップに尽力していきたい。

【大学】 大学競技会実施委員会

<男子> 村上和之

京都産業大学は昨年度の関西リーグ戦を制覇した主力メンバーは未だ健在で、身体能力が高く飛躍的な成長を続けるリンダーライアン雅輝（尽誠学園高189cm）、3Pシュートを武器に得点を挙げる川口廉人（尽誠学園高173cm）、無類の強さを誇る1on1が持ち味の大庭岳輝（洛南高183cm）の3年生トリオに注目したい。そして、昨年度関西リーグ戦でアシスト王を獲得した高田颯斗（洛南高175cm）、インサイドの要として頭角を現してきた会田太朗（星翔高195cm）の活躍が予想される。新戦力の加入もあり、チームとして更に成長した姿を披露してくれること間違いない。



同志社大学は、下級生から試合に出場している選手が多く、昨年度と変わらないメンバーで今シーズンに挑む。ペイントエリアで存在感を放つ田邊陸也（洛南高190cm）、チームの中核を担うスコアラー古村健一（北陸学院高190cm）のインサイドコンビに期待がかかる。もちろん強豪 洛南高校出身で最上級生となった村井大陸（洛南高174cm）、下田忠至（洛南高183cm）にも注目である。今までの経験を活かし最高のパフォーマンスを披露してくれるであろう。

また、昨年の秋季京都学生選手権において優勝した龍谷大学の活躍にも注目だ。最上級生となりチームの絶対的エースとして活躍が予想される高橋龍斗（尽誠学園高169cm）に注目したい。また、京都教育大学も1部チームに善戦し、確かな自信をつけているはずである。チームとして力を発揮することができれば大いに期待できる。



〔写真提供 京都バスケット子タイムズ〕

<女子> 渡邊直裕

昨年は各大会で好成績を残した立命館大学は、中田敦子（高岡第一高176cm）の抜きん出た得点能力に加え、羽田彩乃（四日市商業高158cm）、益田優里（長崎西高165cm）が外角から高確率でリングを射抜く。さらに、ゲームをコントロールする永野倫后（福大若葉高166cm）、オールラウンドなプレイでチームに貢献する石丸佳奈（大阪薫英女学院174cm）、辻本晴香（四日市商業高172cm）ら昨年からチームに貢献したメンバーがさらに上を目指す。

その立命館大学から昨年の秋季京都学生選手権において勝利し、初優勝を遂げた京都産業大学からは下級生からチームを支えてきた和田真奈（園田学園高162cm）、梶原未来（芦屋学園高159cm）、中原純奈（京都すばる高171cm）の4年生トリオに加え、エースとしての得点力に期待がかかる中島千鶴（金沢高170cm）、脚力とシュート力が自慢の木村巴香（京都明徳高165cm）、スピード感溢れる有木沙織（英明高159cm）に注目が集まる。

昨年のリーグ戦（2部）において全勝優勝を果たした同志社女子大学は長身でありながら広いシュートレンジで相手を翻弄する河合茜音（大阪薫英女学院高172cm）とゲームを組み立てる小根澤佳奈（近江兄弟社高155cm）がチームを引っ張る。

京都学園大学からはインサイドの中心となる片山瞳（四條畷学園高174cm）とアウトサイドのキーマン大西絢（岐阜女子高152cm）が存在感を出す。

京都教育大学は昨年ルーキーながら堂々としたプレイを見せた灰塚千沙都(足羽高 163cm)に期待がかかる。

龍谷大学は久郷穂花(滋賀短期大学附属高 162cm)がアグレッシブなプレイでチームを引っ張る。

男女とも上記以外にも好選手は沢山います。京都府出身の選手も多く地元選手の活躍と、各大会において京都府下の大学が好成績を残してくれることを期待しています。皆様の温かいご声援よろしくお願いたします。

バスケットボール発祥の地と京都との絆

NPO法人日本バスケットボール振興会の会報「バスケットボールプラザ」平成29年12月発行にバスケットボール伝来100年記念事業で交流した米国スプリングフィールド大学に関する記事が掲載されましたので紹介します。

~~~~~

**バスケットボール発祥の地と京都との絆  
発祥の地で学んだ日本人の国内普及活動**

1891年12月、米国マサチューセッツ州スプリングフィールドの国際YMCAで「バスケットボール」の競技が初めて行われたことは有名である。J. ネイスミスによって考案されたバスケットボールの初めて行われた競技チームに石川源二郎という日本人が参加していたことも知られている。

去る2017年8月、当振興会事務所を訪問された社団法人京都府バスケットボール協会児玉幸長会長が、本年6月にスプリングフィールド大学から友好の絆を確認する楯を受けたとのお知らせと資料を頂いたので、その経緯を報告する。

1907年スプリングフィールドYMCAを卒業して東京YMCAの体育主事に就任し、バスケットボールを指導した大森兵蔵と、1911年スプリングフィールド大学を卒業して神戸YMCAの総主事を務め、バスケットボールの競技規則を初めて日本語に翻訳した宮田守衛との日本人留学生がいる。この二人が、帰国後、日本のバスケットボールの普及に大きな役割を果たしている。

1913年(大正2年)、米国YMCAのF. H. ブラウンが京阪神と東京で指導している。同年のフィリピン・マニラで開催の第1回東洋オリンピック大会には、バスケットボール競技も含まれていたが、当時の状態ではその招待に応じることができなかった。

1914年、ウィスコンシン大学でバスケットボールを経験した佐藤金一が、旧制京都府立一中(現洛北高)の教諭に就任して京都YMCAの運動部を知り、バスケットボール競技を導入した。これが、前述

の大森兵蔵、宮田守衛などを通じ、スプリングフィールドの地と日本の京都YMCAとバスケットボールの絆を有することとなり、京都を日本でのバスケットボール発祥の地とする根拠となっている。

翌1915年、佐藤金一が中心となり、F. H. ブラウン指導のもと、京都YMCAのチームが結成された。佐藤金一以外の選手は京都YMCAで初めてバスケットボールを始めた人々の集まりであった。1917年、第3回極東選手権競技大会に日本は初めて参加した。日本の代表チームは、神戸YMCAチームに勝利した佐藤金一主将率いる京都YMCAチームである。残念ながら力の差は歴然としており、フィリピン、中国に負けて第3位であった。

この10年後、1924年には、現在の京都府バスケットボール協会の前身となる「京都筌球協会」が発足した。

2014年は京都のバスケットボール導入の年から100年を経過したこととなる。これを記念して、7月、バスケットボール発祥の地であるマサチューセッツ州のスプリングフィールド大学チームが来日し、大学生を中心とした日本代表チームと国際親善試合を行った。

これを機会に、京都府バスケットボール協会は京都YMCAの敷地内に日本のバスケットボール「発祥の地」を記念したモニュメントを設置し、7月19日に除幕式が行われた。

**訃 報**

2017年度中に亡くなられた協会関係者の方です。心からご冥福をお祈り申し上げます。

**元会長**  
野中廣務 様 2018年1月26日ご逝去  
当協会第9代会長として平成5年から12年間京都のバスケットボール発展のためにご活躍いただきました。

**顧問**  
眞木意令 様 2017年5月29日ご逝去  
医科学委員  
岩本熙俊 様 2017年11月2日ご逝去

バスケット専門店B.Ball京都店  
バスケットが大好きな皆様の為に  
バスケットが大好きなスタッフが作り出す  
バスケットがいっぱいあったお店です

2018-19シーズン、京都ハンナリーズは10周年。皆さん、大いに期待してください。9シーズンも、応援よろしくお願いたします。

**B. LEAGUE 2018-19 SEASON 2018年秋開幕!**

〒600-8103 京都市下京区五条通明町東入堀町374 TEL:075-352-3905